

都市再生整備計画 事後評価シート  
本庄新都心地区

平成24年3月

埼玉県本庄市

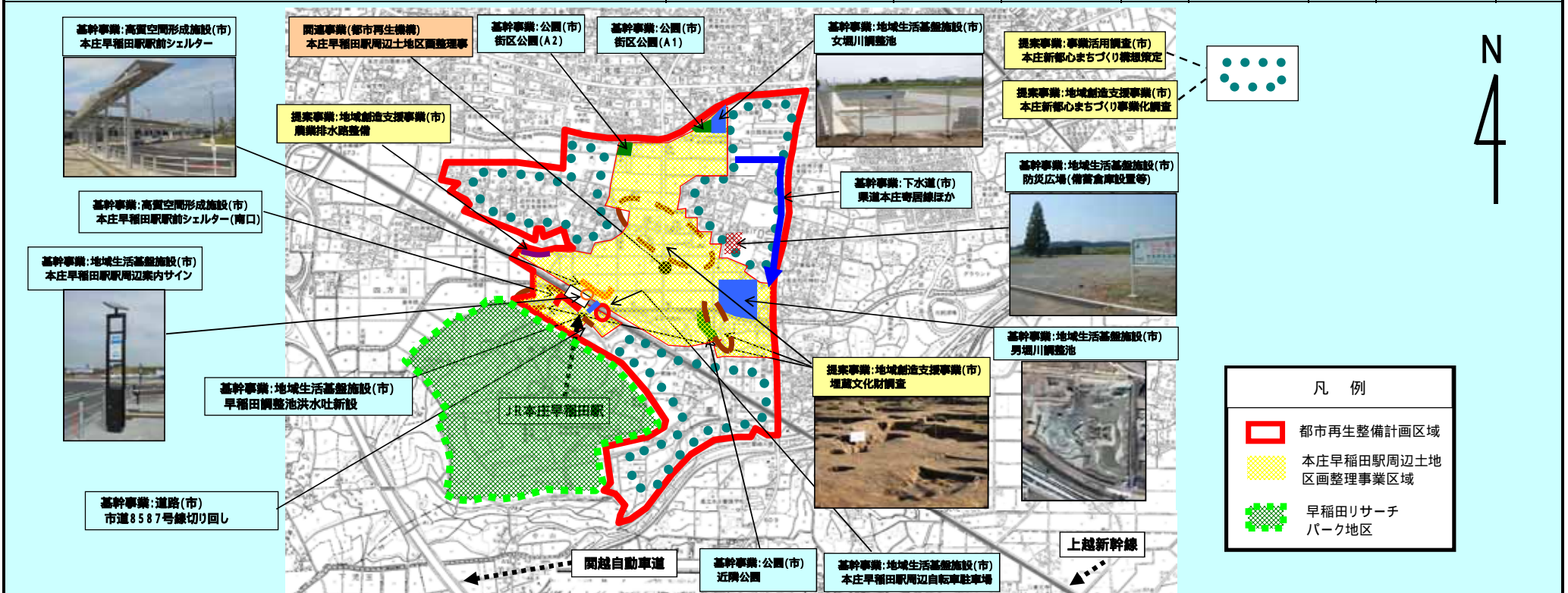
様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県		市町村名	本庄市		地区名	本庄新都心地区			面積	154ha		
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	1,024百万円	国費率	39.90%				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	道路事業(市道8587号線)、公園事業(近隣公園、街区公園)、下水道事業(県道本庄寄居線ほか)、地域生活基盤施設(本庄早稲田駅周辺サイン整備、男堀川調整池築造、女堀川調整池築造、早稲田調整池洪水吐新設事業、備蓄倉庫設置事業)、高質空間形成施設(本庄早稲田駅北口駅前広場シェルター)									
	当初計画から削除した事業		提案事業	地域創造支援事業(農業排水路整備事業、埋蔵文化財発掘調査事業)、事業活用調査(本庄新都心まちづくり構想策定)									
			事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	新たに追加した事業		基幹事業	地域生活基盤施設(耐震性貯水槽設置事業)			防災計画の精査により、削除。			事業の削除は、目標3「災害に強い安心して～」に関係するが、防災広場整備で補完できるため、目標等への影響なし。			
			提案事業	地域創造支援事業(農業用水パイプライン整備事業)			「本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業」の施行者「UR都市機構」が、その関連事業で施工することとなったため、削除。			UR都市機構が代替でおこなうため、目標等への影響はなし。			
	交付期間の変更		当初	平成19年度～平成23年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
			変更										
	2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
		指標1	本庄早稲田駅乗降客数	人/日	4,000	H18	4,800	H23	4,430	3,980	×	あり なし	リーマンショック以後の景気悪化、駅周辺開発も事業途中で住宅や企業の立地はこれからということもあり、新幹線需要創出につながらず目標達成に至っていない。
指標2		地区内居住者数	人	900	H18	1,000	H23		1,044		あり なし	将来発展性への期待値の高まりが、居住者人口の増加へとつながった。	平成24年5月
指標3		公園等利用者満足度	%	0	H18	50	H23		88.6		あり なし	公園等の施設築造にあたっては、計画段階からニーズの把握(ワークショップの開催)に努めるなど、その施策決定プロセスが評価につながった。	平成24年8月
指標4		避難地の確保率	%	3.8	H18	5.1	H23		5.1		あり なし	旧北泉中体育館・プールの解体実施により、避難地が創出された。	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	その他の数値指標1			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	本庄早稲田駅乗降客数にかかるモニタリング		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				引き続き、乗降客数の推移を注視する。					
	住民参加プロセス	「街区公園づくり」にあたり、市民ワークショップを開催		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				引き続き、市民ニーズの把握に努め、ユニバーサルデザインに根ざした施策を推進する。					
	持続的なまちづくり体制の構築	将来、本庄早稲田駅周辺のエリアマネジメントを担う組織の設立		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				引き続き、会の活動支援を通じて、本庄早稲田駅周辺のエリアマネジメントに必要な体制の構築に向けた支援をおこなう。					

## 様式2-2 地区の概要

本庄新都心地区地区(埼玉県本庄市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
大目標: 本庄地方拠点都市地域の中核をなす本庄新都心地区にふさわしい活気に満ちあふれた豊かな自然環境が共生するまちづくり 目標1: 新たな息吹を感じさせるまちの魅力と活気の創出 目標2: 原風景を次世代へ継承する緑と歴史の香り漂う良好な生活環境の創出 目標3: 災害に強い安心して暮らせる住環境の創出	本庄早稲田駅乗降客数	単位: 人/日	4,000 H18	4,800 H23	3,980 H23
	地区内居住者数	単位: 人	900 H18	1,000 H23	1,044 H23
	公園等利用者の満足度	単位: %	0 H18	50 H23	88.6 H23
	避難地の確保率	単位: %	3.8 H18	5.1 H23	5.1 H23



**まちの課題の変化**

・本庄早稲田駅周辺土地画整理事業の施行者であるUR都市機構との調整を図りつつ、駅周辺の公共施設整備も順調に進捗しており、今後は、エリアマネジメントに通ずる施策の研究、実施が課題となっている。  
 ・男堀川調節池のビオトープづくりをはじめ、男堀川の親水河川化や赤城山の眺望に配慮した地区計画等、原風景との調和、融合に配慮した形での事業展開が図れた。  
 ・事業化に至っていない3地区について、各地区それぞれ「まちづくり構想(案)」が策定され、整備方針等について合意形成に向けた協議が進められている。

**今後のまちづくりの方策(改善策を含む)**

現在、UR都市機構により施行中の基盤整備(本庄早稲田駅周辺土地画整理事業)区域について、引き続き、関係機関との連携を図りながら必要施設の整備に努めるとともに、定住人口や交流人口の増加に資するソフト事業施策を推進し、人々の集う、賑わいのあるまちづくりを進めていく。  
 未認可事業区域(3地区)について、UR都市機構による先行整備としてのまちづくりに留意しつつ、具体的な事業フレームの研究・検討をおこなうとともに、長期的な市の財政的負担も勘案しつつ、事業の優先順位化を含めた庁内調整、地元との合意形成に向けた取り組みをおこなう。  
 今後も、都市再生整備計画区域(15.4ha)と早稲田リサーチパーク地区を含めた範囲を「本庄早稲田の杜」と称し、「全国に知られるまちづくり」に通ずる施策の推進に取り組む。